

第4回文京区アカデミー推進協議会 議事録

日 時	平成27年8月18日(火)	18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター24階 文京区議会 第一委員会室	
委 員	会 長	水越 伸 (東京大学教授)
	副会長	久松 佳彰 (東洋大学教授)
	委 員	野口 洋平 (杏林大学准教授)
	委 員	田中 雅文 (日本女子大学教授)
	委 員	金輪 精梧 (文京区町会連合会 副会長)
	委 員	田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長)
	委 員	天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事)
	委 員	三谷 規子 (文京区青少年委員会)
	委 員	鴻瀬 太郎 (小学校PTA連合会 会長)
	委 員	三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事)
	委 員	平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長)
	委 員	柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア講座企画委員会 委員長)
	委 員	塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長)
	委 員	井上 充代 (文京区スポーツ推進委員会 副会長)
	委 員	田辺 武之 (文京区体育協会 副理事長)
	委 員	牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長)
	委 員	白井 圭子 (文京区観光協会 副会長)
	委 員	荒木 時雄 (公益財団法人東京観光財団 常任理事)
	委 員	佃 吉一 (公益財団法人アジア学生文化協会 常任理事)
	委 員	小林 博 (区民公募委員)
	委 員	増田 純 (区民公募委員)
	委 員	金坂 吉雅 (区民公募委員)
	委 員	黒木 美芳 (区民公募委員)
	委 員	黒田 千恵子 (区民公募委員)
	委 員	小野澤 勝美 (アカデミー推進部長)
欠 席	委 員	青木 和浩 (順天堂大学准教授)
	委 員	高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長)
	委 員	上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長)
	委 員	鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
	委 員	春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長)

	委員	森岡 隆	(文京区国際交流フェスタ実行委員会 委員長)
	委員	松井 良泰	(公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
事務局		山崎 克己	(アカデミー推進部アカデミー推進課長)
		熱田 直道	(アカデミー推進部観光・国際担当課長兼オリンピック・パラリンピック推進担当課長)
		細矢 剛史	(アカデミー推進部スポーツ振興課長)
		福田 昭正	(アカデミー推進部アカデミー推進係長)
		山本 恵美子	(アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック調整担当)
	支援事業者	株式会社創建	大谷・氏原
資料	資料第1号	各分野体系案(案)	
	資料第2号	アカデミー推進計画 施策体系(案)	
	資料第3号	アカデミー推進計画 目次構成案	
	資料	外国人住民へのヒアリング(中間まとめ)	

議 事

1. 開 会

水越会長よりご挨拶をいただいた。

水越会長 暑い中参集いただき、感謝申し上げます。前回の協議会では各分科会での協議結果を共有した。その後、もう一度分科会で議論いただき、言葉づかいなどを整理したものを施策体系案としてとりまとめた。今回は、各分野の最終案を説明いただくとともに、計画全体の基本理念や共通目標を全員で確認したい。

2. 議 題

(1) 各分科会より分野別体系(案)について

各分科会座長ないしは事務局より、資料第1号に基づき、現行計画の構成と、その構成における課題について説明を行った。

①生涯学習分野について

水越会長 事前に送付された資料と当日配布されている資料では、分野別目標1の(3)の言葉づかいで、「ライフスタイル」が「ライフステージ」に変更されている。今日配布された方が正しいと考えてよいか。

田中委員 今日の方がよいと思っている。

水越会長 分科会の協議で「ライフステージ」がよいという話になったということか。

田中委員 そうだ。ただ、協議会での意見を踏まえたい。

- 水越会長 分科会での話し合いの結果であれば、それを尊重したいと思うが、よろしいか。ところで、資料にある「既存の事業」「事業につながるご意見等」は計画書には記載されるのか。
- 山崎課長 文化芸術分科会では計画書の資料として掲載するとよいというご意見をいただいている。ただ、本編には掲載しないものと考えている。
- 水越会長 承知した。今回、まちづくりにかかわるコミュニティ形成が生涯学習に深く関係するものとして、施策体系に組み込んだことが大きいという話だったと思う。

②スポーツ分野について

- 水越会長 スポーツ分野に関しては、オリンピック・パラリンピックで舞い上がるのではなく、しっかりと受け止めていくという方針だった。特にパラリンピック、あるいは障害者スポーツのことを丁寧に扱っていること、コミュニティ形成にスポーツを結びつけていることは大変よいことだと思う。質問だが、分野別目標4の(1)にある「コミュニティプログラムに特化した事業とは具体的にどのようなことか。
- 細矢課長 現在もPTAで親子でのドッジビー大会が行われているが、目的としては親子の交流であり、コミュニティの醸成だ。競技ではなく、コミュニティ形成を目的とした事業を意図している。
- 水越会長 承知した。

③文化芸術分野について

- 水越会長 確認だが、分野別目標1の(3)にある、多様な主体・媒体を活用した情報発信の仕組みづくりのなかでいう「多様な主体」というのは区民を意味するのか。
- 山崎課長 そうだ。前回の分科会では結論が出ず、事務局提案となった部分だが、「活用」という言葉が主体と媒体の両方にかかるのかが気になっている。たとえば「多様な主体・媒体による情報発信の仕組みづくり」の方がしっくりくると思うが、いかがか。
- 水越会長 それでよいと思う。

④観光分野について

- 水越会長 細かな指摘になるが、分野別目標1の(2)で「文の京ならではの魅力向上・新たなストーリー」とあるが、「・」ではなく「、」でつなぐ方がよいのではないか。新たなストーリーは並列されるものではないように思う。
- 野口委員 いまも検討中ではあるが、新たなストーリーの展開というのは、文の京な

らではの魅力から離れたものであってもよいのではないか。むしろ文の京にこだわってはいけないとも考えられるので、水越会長の意見も踏まえ整理したいと思う。

水越委員 参考にしてもらいたい。もうひとつ、これも細かい指摘だが、文化芸術分野でも「発掘」という言葉が話題になった。伝統的なものを発掘すると言ったときに、考古学的な発掘作業がイメージされないかという趣旨だ。観光分野では、そのような誤解はないとは思いますが、「発見」という言葉でもよいかもしれない。

野口委員 「発掘」という言葉づかいは、観光分野ではよくあって、文学的というか、言葉のおもしろさで使われるのだと思う。「発見」でも言葉づかいに問題はなく、よりふさわしい言葉づかいもあると思うので、検討したい。

水越会長 文化芸術分野では「発掘」という言葉を「再発見」に変更している。もちろん文化芸術と観光ではニュアンスが異なると思うので、「発掘」でよいかと思う。

⑤国際交流分野について

田中委員 計画全体の4つの共通目標との関係で提案したい。あまり画一的に対応させる必要はないと思うが、国際交流分野において環境形成や人材育成は取り上げられているが、価値の協創に関わる部分があまりない。たとえば外国人観光客が訪れることや、外国人が多く住んでいることを背景として、外国人と区民の交流を通じて国際都市としての価値をつくったり、発信したりすることも考えられるのではないか。その点で価値の協創につながると思うが、今日示された施策体系には見当たらない。具体的な事業として考えると無理があるのかもしれないが、その点についてはどのような検討がなされたのか。

久松委員 その点については十分には議論ができていないと認識している。ただ、分野別目標1の(3)の「国際理解に向けた情報の収集・発信・共有」が、価値をつくっていく上での基盤になるのではないかと考えている。逆に、情報の収集・発信・共有がなされなければ、価値をつくるといっても基礎がない。今回の計画下では、この部分をしっかりやるのだと考えている。国際交流を行っている区民・団体の掘り起こしや、海外経験のある区民の活用、大学生による情報発信、東京大学目白宿舎との連携などに取り組んでいくことで、国際交流やそこから価値を生み出すための土壌が生まれてくると考えている。そのように整理をしている。

田中委員 承知した。

小野澤部長 先ほど東京大学目白台宿舎の名前が挙げられたが、700名近い外国人を区

として受け入れるための行政的な手続きを東京大学と連携して行っている。もうひとつ、宿舎には300名の日本人居住者がいるので、外国人だけではなく、日本人も含むコミュニティが形成されることから、周辺の町会からも自分たちのコミュニティをあらためて見直したいという要望も出ている。このような状況を踏まえ、今後の活動を展開していきたい。

水越会長

その他にあるか。

黒木委員

目白台宿舎のあたりにはBーぐるは運行しているのか。Bーぐるの停留所をつくれば宿舎を訪れる区民も出てきて、交流の場になるのではないか。

野口委員

観光に関わることだが、国際交流というと英語が想起されるが、外国人観光客の多くはアジア圏から訪れており、1位が台湾、2位以下に韓国、中国、香港と続く。一時的な来訪者の多くは英語ではなく、中国語や韓国語を使う人が多いということになるのだが、多言語対応はどのように議論されていたのか。観光でも議論すべきことだったかもしれないが、教えてもらいたい。

久松委員

言語の問題は、生活や滞在という観点から協議したので、かならずしも旅行者を対象としたものではなかった。ただ、分野別目標2の(1)に示している外国とのつながりを意識した区内観光が、観光とかかわりのあるところになるので、看過しているわけではないが、協議としてはこの程度になっている。

野口委員

承知した。もう一点、すべての分野にかかわることだが、「文の京」とは何を意味するのか。何をもち「文の京」らしいとするのか、それは文京区らしさと同じものとしてとらえてよいのか。計画全体で「文の京」という言葉を使うのであれば、イメージを共有しておく必要があるのではないか。観光分野では、先ほど申し上げたように、新しいイメージをつくり、「文の京」を超えようとしているので、今日以降、議論する必要のある点かと思う。

小野澤部長

「文の京」は、基本構想にて、「これまで、文京区は、「文教の府」といわれ、「文化の香り高いまち」をめざして発展してきた。これに寄せる区民の誇りと愛着を大切にしたい。そのうえで、区民と区が、時代の大きな変化に適応しつつ、可能性に富んだこの地を、新たな洗練と成熟の段階へとさらに発展させていく都市自治の姿を「文の京」と呼ぶ。」と定義されている。直接的な伝統を守ることとともに、新たな文京区をつくっていくものでもあるので、いまおっしゃった意味合いは含まれていると思う。

水越会長

高らかな宣言文だと思うが、重要なことは各分野での「文の京」の使い方を統一する必要があるということだろう。かならずしもすべて同じにする必要はないと思うが、伝統的なことだけでなく、新しいことにも取り組む

ということを念頭に置いた方がよいと思う。

野口委員 たとえば観光分野の分野別目標2の(2)で「文京区の地域ブランド力向上」と書かれていますが、これと『文の京』のブランド力向上が同じことを意味するのかどうかと言われると、判断が非常に難しい。文京区のブランドが「文の京」であり、既に確立されたものがあるのであれば、「文の京」のブランドは適切ではないと思う。また、文京区の文化を守るという表現と、「文の京」の文化を守るという表現も違う意味としてとらえられるように思う。

水越会長 これは、文京区が「文の京」をいう言葉を、どのぐらい重んじて使っていくのかということにかかっている。基本構想に示された内容がいまも引き継がれていて、今後もそれを貫こうというのであれば、「文の京」という言葉を使うのがよいと思うが、文京区でもよいのかなとも思う。区としてはどのようにとらえているのか。

小野澤部長 区でも、ケース・バイ・ケースで使い分けている。たとえば埼玉県で「彩の国」という言い方があるが、それと同様に、文京区をひとつの言葉で表現できるものとしてとらえて、使っていることが多い。先ほど読み上げた定義は裏打ちであって、個人的には、アカデミー推進計画では、文京区と「文の京」は同じ扱いでよいのではないかと思う。

田中委員 文京区というのは自治体の名前であり、それ以上でも以下でもない。一方、「文の京」という言葉には価値が付加されており、文京区がどうありたいのかという期待を込めた表現になるのではないかと理解した。そうだとすると、ブランド力の部分は「文京区のブランド力」が適切だと思う。『文の京』のブランド」といってしまうと、「文の京」に価値が含まれているので、入れ子になってしまう。

水越会長 田中委員の指摘が適切だと思う。ただ、あまり厳密にやりすぎると大変になるが、「文の京」という言葉を使う際には、含意のある表現として「」でくくること、それから客観的に自治体や地理的範囲を意味する場合は文京区という整理でいかかがか。

黒木委員 基本構想における「文の京」の定義を聞くと、「文の京」自体がブランドを意味していると思う。文京区という表現は、行政区ないしは行政自体を意味するものだと思うので、「文の京」という言葉の方が文化的なものとして使ってもらえるとよいのではないか。

平井委員 いまの話を踏まえると、観光分野の「文京区の地域ブランド」は『文の京』の観光ブランド」と変更されるのか。

野口委員 分野別目標1の(2)において、『文の京』ならではの魅力向上」という表現が使われているが、ここは多くの方が文京区に対して抱いているイメ

ージを武器にすることだと思いが、次の「新たなストーリー」というのは、そのイメージから脱却しようという意味合いも込めている。そうすると『文の京』の地域ブランド向上」という表現に変更するのは躊躇する。文京区の強みが「文の京」的なものだけなのかどうか、何をもって観光的な魅力として打ち出すのかは議論する必要があると思う。ただ、いずれにせよ、「文京区地域ブランド」と表現しておけば「文の京」もふくむ地域ブランドを複数想定できるので、よいかと思っている。

平井委員 自分も「文京区地域ブランド力向上」でよいと思っている。

黒木委員 文化というのは、発掘するよりも、新たにつくるものではないか。だから、「新しいストーリーをつくる」ということは、とてもよいことだと思っている。「文の京」という表現には、そのようなことを含んでいると思うので、自分は文京区よりも「文の京」の方がよいと思う。

田中委員 文京区と「文の京」の使い分けについては、委員長と事務局の方で見直してもらおうということではよいのではないかと。

水越会長 自分の意見は変わり映えはないが、「文の京」にはかならず「」を付けるということがよいと思う。黒木委員の意見はもっともだが、全体を読んだときに「文の京」が要所要所で使われているということではよいのではないかと。地域ブランドの話でいうと、もういちどネジを巻くという意図を込めて、「文の京」を超えるという意味も込めて文京区でよいと思う。「文の京」はよい表現だが、新しいストーリーまで含むものとしてとらえるかどうかは、区や区民がどのように考えるかだと思う。自分はさしあたり、冒頭で話したような簡単な対応でよいと思う。

(2) 計画の理念・目標・横断的政策（案）について

水越会長より、計画の理念・目標・横断的施策について説明がなされた。

田中委員 3点ほど感想がある。基本理念については、副題を変更できるという話があったが、先ほどの「文の京」の考え方を聞くと、副題は「楽しむまち」よりも「豊かな学びと交流が輝く」ないしは「生み出す」といった動詞の方が公共性が感じられるのではないかと。「楽しむ」では一人ひとりの人生が豊かになるということに終始する気がするので、副題を検討した方がよいと思う。次に、共通目標で使われている「創造」や「協創」という言葉づかいの統一を図った方がよいと思います。最後も、文言の整理になるが、4つの共通目標ごとに細目が示されているが、複数の共通目標に該当する細目で重複しているものがある。「学びと交流を支援する」を意味する細目が多いのだが、これは環境形成に収めるのがよいのではないかと。また、

人づくりという共通目標に関しては細目をまとめられるものもある。あらためて精査いただきたい。

水越会長 「価値の創造」は「協創」とした方がよいと思う。行政が取り組むわけだが、様々な立場の区民がかかわることもあると思うので、「協創」が望ましい。

柳澤委員 「協創」という言葉ははじめて耳にしたが、一般的に使われるのか。
水越会長 使われます。

平井委員 確認ですが、「環境形成」は「環境づくり」、「人づくり」は環境と同じく「づくり」とする。「価値の創造」は「協創」に変更するというのでよいか。あと、田中委員から指摘のあった基本理念の副題は、変更することができるのか。提案にあった「生み出す」がよいと思うのだが、大きな話なので委員からも意見を聞きたい。田中委員の意見には、「楽しむ」ではエンターテイメント的な意味だけになりかねないということも含まれていると思う。みんなで協力して活動することも含めた方がよいということだと思うが、いかがか。

小野澤部長 現行計画を策定する際にも協議会で議論した上で「楽しむ」という言葉が生まれたと記憶している。その際は、協働して何かをつくるというよりも、みんなが楽しむということを重視した計画になっていた。それに対して、新しい計画は、先ほど「文の京」を大事にしながら新しい文化をつくろうという議論があったように、つくるということにスポットを当てていくのであれば、副題の変更は差し支えないと考えている。

野口委員 「協創」という言葉が使われているので、「つくる」「生み出す」というニュアンスは適していると思う。

久松委員 自分も同感だ。共通目標はすべて、つくる・構築・協創という言葉だ。みんなでつくるという前向きでダイナミックな言葉が並んでいる。それをまとめる理念は、「楽しむ」よりも「生み出す」の方がよいと思う。

野口委員 共通目標だが、「街」という言葉は、観光の観点で考えると、市街地や商店街など、人が住んでいるところを意味している。狭い意味になってしまうので「まち」とひらがなで使うことが多い。「地域」や「区」という言葉づかいも考えられるが、気になった。あと、横断的施策についてだが、現行計画では森鷗外に関する取組があったと思う。新しい計画では、そのような施策が読み取れないが、何か考えはあるか。

水越会長 言葉づかいについては、現状、十分に議論し尽くさせていないと思うので、事務局と有識者で検討したいと思う。横断的施策のあり方については区から説明いただきたい。

山崎課長 現行計画では、分野横断型プロジェクトという枠組みを設け、分野を超え

た事業を盛り込んでいた。一方、新しい計画で設けた横断的施策は、事業のひとつ上のレベルを表現している。分野を横断する事業を、たとえばオリンピック・パラリンピックや情報発信というテーマでとりまとめて、整理しようと考えている。

- 野口委員 レベルの話はわかるが、とりまとめることができるのか。
- 水越会長 事業についてはこれから議論がなされ、充実していくことになると思うが、横断的施策にだけ該当する事業というのもありえるのか。
- 山崎課長 情報の収集・共有・発信に関する事業は、いずれの分野でも取り込まれることになるので、それをあらためて横断的施策として再掲するというイメージでいる。
- 水越会長 それはそうだが、ただ整理するだけではなく、5つの分野を横断する重要な施策として強く打ち出してもらいたいとも思う。
- さて、細かい部分のご指摘はあったが、基本的な方向は了解されたということでしょうか。共通目標については、田中委員から指摘もあったが、整理する必要があると思う。細目をこまかく整理するというよりも、4つの共通目標に関する説明のなかで説明していけばよいのだと思います。

(3) 計画の構成について

事務局より、計画全体の目次構成について説明がなされた。

- 水越会長 執筆のスケジュールを教えてください。
- 山崎課長 今日までの議論を踏まえ、事務局と支援業者で9月いっぱい執筆を進める。有識者の委員には適宜相談した上で、次回10月23日の協議会で原案を示したい。
- 水越会長 次回示される資料は、現行計画のような分厚い資料が提示されるということか。
- 久松委員 構成についてだが、4つの共通目標と計画を貫く考え方については、分けて示す必要はないのではないかと。細目を取り込みながら共通目標を説明すればよいと思う。あと、第4章の計画の進行管理については、厳密でなくてもよいので、スケジュールを示した方がよいのではないかと。区役所も、委員会も人は入れ替わる可能性があるため、計画書で明記して、何をいつやればよいのかを確定できるとよいと思う。PDCAの概念的な説明ではなく、カレンダーのような形で示すことを検討してもらいたい。
- 水越会長 自分も賛成だ。あと「計画の進行管理」となっているが、実際行っているのは進行管理ではなく、評価だ。そして、評価を行うのであれば、その方法は事前に決めておかなければいけない。第4章に書かれるべきは推進・

評価の体制であって、評価のフォーマットだと思う。それをマニュアルとして、その時々で委員会で評価を行えるようにしておけばよいだろう。全体の流れは妥当なものだと思うので、第4章の内容については留意いただきたい。

(4) その他

事務局より次回協議会の日程が説明された。

以上